

ハフポスト日本版
「福島、その先の環境へ。」ツアー2024
活動報告

Presenter: 熊倉泰成

東電廃炉資料館にて事故原因を学んだ



今回：学びの共有と提案

【事故の根本原因分析】

なぜ、事故を防ぐことができなかったのか。

〈津波対策の不備〉

根本原因	不確かさが大きな自然災害に対し、想定を上回る津波が来る可能性は低いと判断し、自ら対策を考えて備えを行う姿勢が不足した。	
問題点の整理	安全意識	・不確かさが残る自然現象に対し、深層防護に則して対策を講じる姿勢が欠けた。 ・福島県沖でも大津波発生は否定できないとの専門家意見を軽視した。
	技術力	・機動的に実施可能な対策を発想する頭の柔らかさが不足した。
	対話力	・津波対策が必要だと率直に社会にお伝えし、議論に真摯(しんし)に向き合おうとする誠実な姿勢が不足した。

〈過酷事故対策の不備〉

根本原因	これまでの過酷事故対策をとった時点で、事故が発生する可能性は十分小さく、さらに安全性を高める必要性は低いと思い込んだ結果、過酷事故対策の強化が停滞した。	
問題点の整理	安全意識	・継続的に安全性を高めることが重要であるとの認識が不足した。 ・過酷事故対策はこれまでに実施した対策で十分と過信した。
	技術力	・自然現象やテロによって全電源喪失が発生し過酷事故に至るリスクが大きいと考えなかった。 ・海外事例や他発電所のトラブル事例から有益な対策を見つけ出す力が不足した。
	対話力	・過酷事故対策の必要性を認めると、現状の原子力発電所が十分に安全であることを説明することが困難になると考えた。

〈事故対応の準備不足〉

根本原因	過酷事故や複数号機の同時被災が起こると考えていなかったため、現場の事故対応の訓練や資機材の備えが不十分であった。その結果、重要なプラント状態の情報の共有や迅速・的確な減圧操作等ができなかった。	
問題点の整理	安全意識	・過酷事故は起こらないとの思いこみから、訓練計画が不十分であり、訓練が形式的なものとなっていた。 ・同様に、必要な資機材の備えが不足した。
	技術力	・緊急時に必要な作業を自ら迅速に実行する能力が不足した。 ・プラント状態の把握や円滑な情報共有が図れなかった。
	対話力	・原子力事故の状況を、地元や社会の皆さまに迅速かつ的確にお伝えすることができなかった。

TEPCO
東京電力ホールディングス

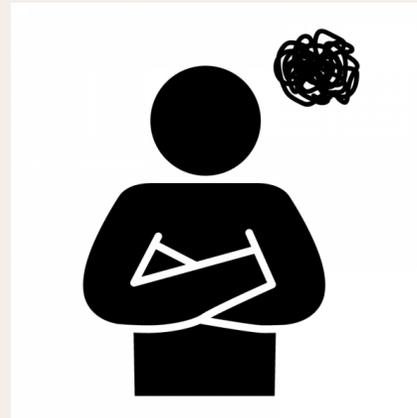
事故の発生原因に共感できる気がした



出典：東京電力ホールディングス

Risk0%

Risk100%



大津波のリスク
はどれくらい？

「数百年に一度」のリスク判断は難しい

除去土壌の最終処分はどうする？

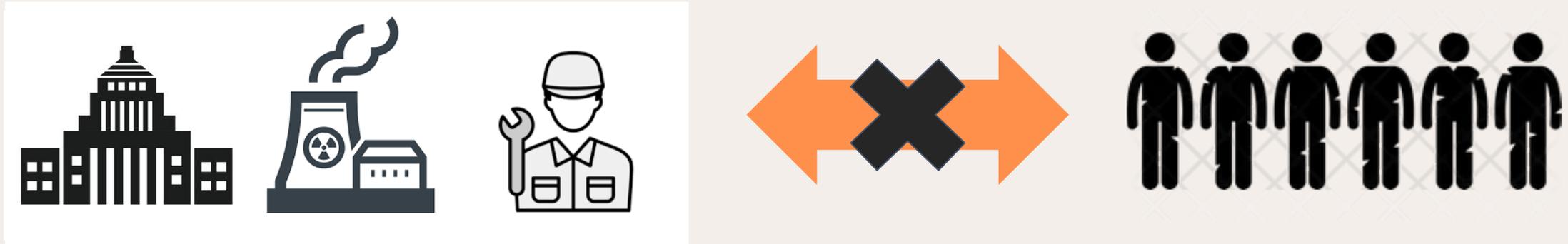


出所：[ハフポスト日本版](#)

認知度の低さに大きな課題

| 原発の議論に国民が混ざっていない

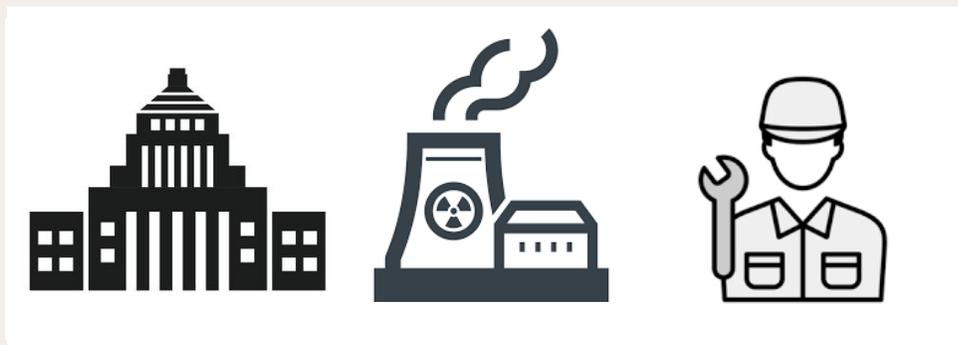
分かる人（国・電力会社・専門家）の間で議論が閉じている



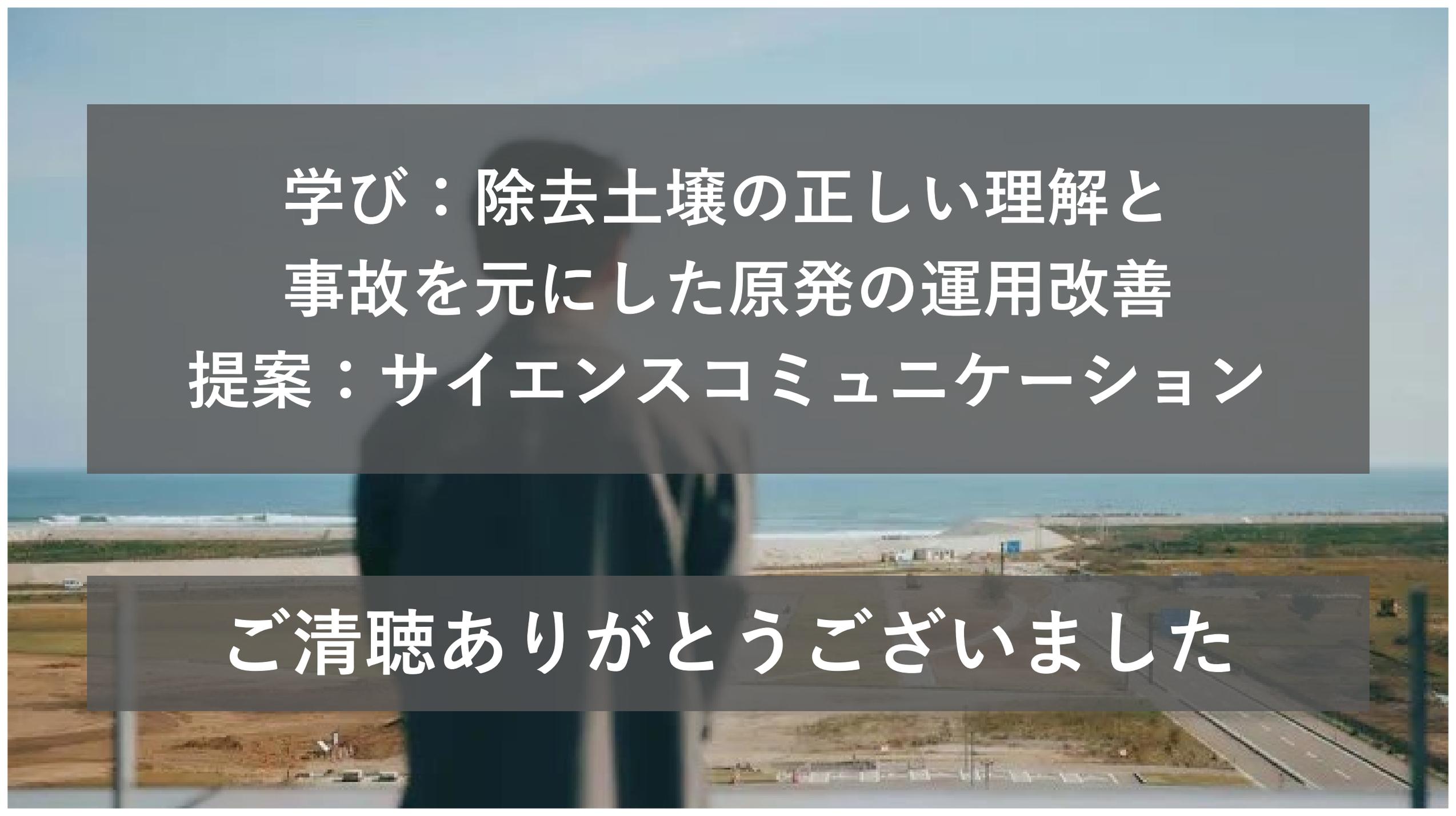
科学技術の内容はハードルが高いためと推測

提案：国民が科学的議論に混ざれる環境づくり

サイエンスコミュニケーションの強化が必要
(科学技術を専門家-非専門家間で橋渡しする分野)



国民からの議論・監視が機能する状態へ



学び：除去土壌の正しい理解と
事故を元にした原発の運用改善
提案：サイエンスコミュニケーション

ご清聴ありがとうございました